

データベースは表計算ソフトとココが違う!



表計算ソフト **データベース**

ポイント①
何度も出てくる取引先の名称や住所。入力は何度か?

販売台帳

商品	相手	TEL	住所
①	A	〇X...	
②	A	〇X...	
③	B		
④	A	〇X...	

その都度入力

毎回入力

取引先台帳

社名	TEL	住所
A社	〇X...	
B社	〇X...	

販売台帳

商品	社名
①	A社
②	A社
③	B社
④	A社

つなげて表示できる

住所、電話などは再入力不要

1度入力すればよい

ポイント②
データ量が多くなったらどうなる?

ファイルが大きくなりがち。動作が遅くなったりフリーズしやすくなる

重複入力がないので効率が良く、データが増大しても動作は快適

ポイント③
皆で同時に、安全に使える?

更新できない

使用中

原則的に1人ずつ

同時アクセスや細かいアクセス管理もOK

ポイント④
表やグラフの作成など加工面は?

パソコンで自在にできる

データを取り出すまでが主任務

お問い合わせ先
アイエニウェア・ソリューションズ株式会社
千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル
電話 03-5210-6380
URL: http://www.ianywhere.jp

here Studio」は表計算ソフトとの組み合わせもバッチリ。既存システムからの移行も簡単で、過大な設備を必要としないため中小規模企業において導入を検討しやすい製品といえる。減税のチャンスを利用して、会社の情報基盤を整え、競争力を高めよう。

データベース製品案内
中小規模企業のビジネスに最適なデータベース
世界で900万社の導入実績!

「SQL Anywhere Studio」
(エスキューエル・エニウェア・スタジオ)

高価なハードウェアを
買うのはちょっと...

ITの専門管理
者がいない

という企業でも、導入できる!

SQL Anywhere Studio (Windows版) 基本パッケージ
92,000 円(税込)

タの不整合が起こらないよう制御するので、どんどん更新作業を進められるのだ。

また、表計算ソフトではデータが一定量を超えると処理速度が低下するが、データベースは大量のデータでも快適に操作できる環境を整えている。

さらに情報セキュリティの面でも、アドバンテージがある。データの重要度によってアクセスできる従業員を制限できるのだ。これはデータベースならではの特徴である。

**適材適所で
上手に使い分けよう**

もちろん表計算ソフトはパソコンで手軽に操作でき、きれいな表やグラフの作成などデータの加工活用には優れた力を発揮する。表計算かデータベースかを選ぶのではなく、情報を管理するのはデータベース、取り出したデータを手元で加工し文書を作成する際は表計算ソフトといった使い分けが有効である。

アイエニウェア・ソリューションズのデータベース「SQL Anywhere Studio」は表計算ソフトと違って、データの加工活用には優れた力を発揮する。表計算かデータベースかを選ぶのではなく、情報を管理するのはデータベース、取り出したデータを手元で加工し文書を作成する際は表計算ソフトといった使い分けが有効である。

ただし、本税制は情報セキュリティの国際基準である「ISO/IEC 15408」で評価・認証された製品の活用が前提となる。対象製品の一つ、アイエニウェア・ソリューションズの「SQL Anywhere Studio」は中小企業向けデータベースであり、かつ本認証を取得している。いわば中小企業のデータベース活用にはピッタリという「お墨付き」のデータベースと言えるから、業務システムの基盤をこの機会に構築し

**3年間の減税措置
データベース活用のチャンス**

企業の国際競争力強化と情報セキュリティの確保を視野に施行された「情報基盤強化税制」(詳細は前ページ参照)。本減税制度はデータベースの活用で企業内・企業間の情報資産を有効に使い、経営効果を出す企業を増やそうというもの。つまり、国の施策もデータベースに着目しているのだ。



は、取引先リストに掲載するだけでなく、販売業務でも請求書発行業務でも利用する。もし請求書発行のたびに社名、住所...と入力していたら、手間もかかるし重複したデータがどんどん増えてしまう。社名や電話番号が変更となれば、修正作業は膨大だ。直し漏れや入力ミスによるデータ不整合も発生しやすくなる。

具体的なシーンで表計算ソフトとの違いを見ていこう。

①同一情報の重複入力を避けた

表が一つで完結するならば表計算ソフトでOK。しかし例えば取引先の社名・住所・電話番号といった情報

業務で使うデータは複数の従業員で共用するのが通例だ。

表計算ソフトはファイルがある一人が使っていると他の従業員はデータを更新できない。一方、データベースは複数の人のアクセスがあってもデータの不整合が発生しやすくなる。

②皆で快適に、安全に使いたい

データベースには、一つの表に入力されたデータを他の表で使える(表同士で共通する項目を結びつける)仕組みがある。よって重複入力が発生せず、作業量やミスが減るうえ、データの保存スペースを有効に使えるのだ。

前号(COMPASS2006年春号)では、データベースの定義、役割に関する基本的な考え方を解説した。今回は、表計算ソフトとデータベースの相違点を中心に、データベースのメリットを紹介していく。

**表計算ソフトとデータベース
使い方の違いはどこにある?**

減税になる
今こそデータベース
導入を!

